

10周年記念展『10TH』開催のご案内

展覧会名：『10TH』

会 期：2020年10月9日（金） - 11月15日（日）

前期：10月9日（金） - 25日（日） / エキソニモ・大久保紗也・川内理香子・川辺ナホ・土取郁香

後期：10月28日（水） - 11月15日（日） / 飯山由貴・伊東宣明・川辺ナホ・柴田祐輔・三宅砂織

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

- ・会期中は、水・木・金・土 12-19時、日 12-17時のオープンとなります。（定休日：月火祝）
- ・本展のオープニングレセプションは開催致しません。

WAITINGROOM（東京）では、開廊10周年を記念したグループ展『10TH』を、2020年10月9日（金）から11月15日（日）まで開催致します。会期を前期と後期に分け、前期は平面作品のグループ展、後期は映像作品を上映形式で紹介する映像のグループ展を企画しました。所属作家や今までWAITINGROOMで展覧会を開催した作家など、総勢9名の賑やかなグループ展となります。また、この10周年記念展のオープンにあわせて、WAITINGROOMのウェブサイトもリニューアルオープンいたします。オンライン上でのみ紹介する作品や記事を掲載するVIEWINGROOM（ビューイングルーム）も開設します。展覧会、ウェブともに是非ご高覧ください。

10TH

前期：10月9日（金） - 10月25日（日）

エキソニモ・大久保紗也・川内理香子・川辺ナホ・土取郁香

後期：10月28日（水） - 11月15日（日）

飯山由貴・伊東宣明・川辺ナホ・柴田祐輔・三宅砂織

全員プログラムA：10月28日（水）・31日（土）・11月7日（土）・14日（土）

全員プログラムB：11月1日（日）・8日（日）・15日（日）

川辺ナホ&三宅砂織：10月29日（木）・11月6日（金） 飯山由貴：10月30日（金）・11月11日（水）

伊東宣明：11月4日（水）・12日（木） 柴田祐輔：11月5日（木）・13日（金）

*後期は映像の上映会形式のグループ展になります。詳細なプログラム（上映時間含む）は、ウェブに公開いたしますので、そちらをご確認くださいませ。

↓ <次頁> 作家略歴



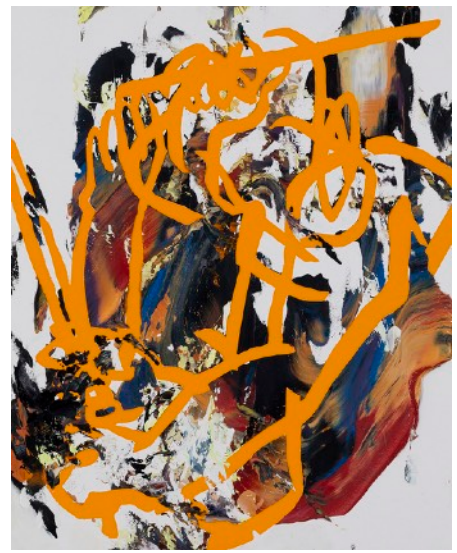
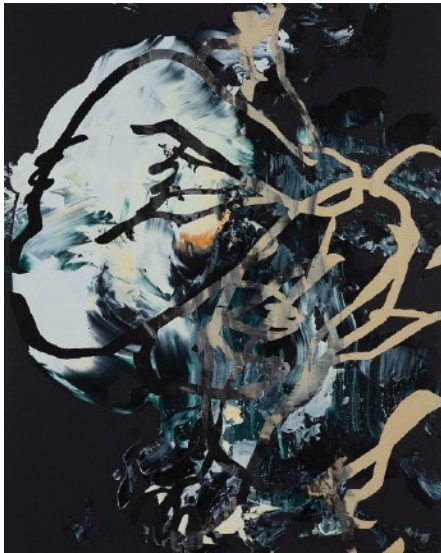
エキソニモ

千房けん輔と赤岩やえによるアートユニット。1996年にインターネット上で活動を開始。2000年から実空間でのインスタレーションやパフォーマンス、イベントオーガナイズ等へ活動を広げます。2006年、世界的なメディアアート・フェスティバルであるアルス・エレクトロニカのネット・ヴィジョン部門でゴールデン・ニカ賞（大賞）を受賞。2012年には10数名のメンバーと共にIDPW（アイパス）を組織し、「インターネットヤミ市」をはじめとするイベントを国内外で開催。2015年からはニューヨークを拠点に活動中。近年の展覧会として、2020年個展『UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク』（東京都写真美術館／東京）、個展『Slice of the universe』（MAKI Gallery／東京）、2019年グループ展『あいちトリエンナーレ2019』（愛知県美術館／愛知）、個展『U & I』（NOWHERE／ニューヨーク）、『SUNRISE/SUNSET Artport』（Whitney Museum website／ニューヨーク）、2018年グループ展『メディアアートの輪廻転生』（山口情報芸術センター[YCAM]／山口）、『ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて』（水戸芸術館／茨城）、2013年個展『TO THE APES』（三菱地所アルティウム／福岡）など国内外多数。



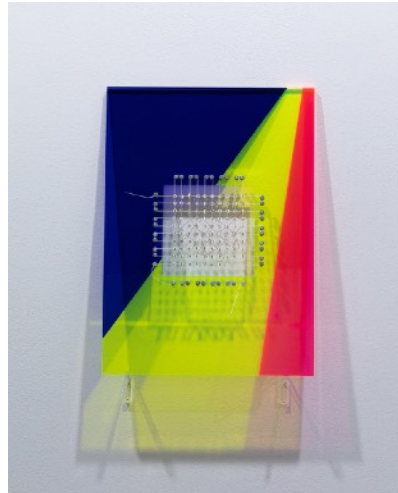
川内 理香子（かわうち・りかこ）

1990年東京都生まれ。2017年に多摩美術大学大学院・美術学部・絵画学科・油画専攻を修了。現在は東京を拠点に活動中。食への関心を起点に、身体と思考、それらの相互関係の不明瞭さを主軸に、食事・会話・セックスといった様々な要素が作用し合うコミュニケーションの中で見え隠れする、自己や他者を作品のモチーフとして、ドローイングやペインティングをはじめ、針金やゴムチューブ、樹脂やネオン管など、多岐にわたるメディアを横断しながら作品を制作しているアーティストです。近年の展覧会として、2020年個展『Myth & Body』（三越コンテンポラリーギャラリー／東京）、2019年グループ展『drawings』（ギャラリー小柳／東京）、2018年個展『human wears human / bloom wears bloom』（鎌倉画廊／神奈川）、個展『Tiger Tiger, burning bright』（WAITINGROOM／東京）、2017年グループ展『ミュージアム・オブ・トゥギャザー展』（スパイラル／東京）、2016年個展『Back is confidential space. Behind=Elevator』（WAITINGROOM／東京）、2015年個展『SHISEIDO ART EGG vol.9 : Go down the throat』（資生堂ギャラリー／東京）が挙げられます。また、2014年『第1回CAF賞』では保坂健二郎賞を、2015年『SHISEIDO ART EGG』参加の際はART EGG賞を受賞するなど、若手ながら確かな実力を持つアーティストです。



大久保 紗也（おおくぼ・さや）

1992年福岡県生まれ、京都在住。2017年に京都造形芸術大学大学院・芸術専攻ペインティング領域を修了。輪郭線として表現される記号的なイメージと、物質感を伴うフェノメラルな像のうねりという、二つの分離した要素を共存させた絵画を制作しているアーティストです。近年の展覧会として、2020年個展『They』（WAITINGROOM/東京）、2019年グループ展『大鬼の住む島』（WAITINGROOM/東京）、2018年個展『a doubtful reply』（WAITINGROOM/東京）、2017年グループ展『美大生展2017』（SEZON ART GALLERY/東京）、2016年グループ展『movement 2016 - 1st movement -』（ARTZONE/京都）、2015年『HERE I AM KUAD x TUNA交流展』（Na pai Art Gallery/台湾）などが挙げられます。2017年秋に参加した公募グループ展『第4回CAF賞入賞作品展』（代官山ヒルサイドフォーラム、東京）では白石正美賞を受賞し、その作品が大きく注目されました。



川辺 ナホ（かわべ・なほ）

1976年福岡県生まれ、現在はドイツと日本を拠点に活動中。1999年に武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業後、2006年にUniversity of Fine Arts of Hamburgを修了。マテリアルの変換をテーマに、映像や複数のオブジェを組み合わせたインスタレーションなど、メディアを横断して作品を制作しているアーティストです。近年の展覧会として、2019年個展『Blooming Black』（Boxes Art Museum/中国）、2019年グループ展『Aufenthaltswahrscheinlichkeiten・確率的滞在』（The Blend Apartments & Artist in Residence/大阪）、2018年個展『Save for the Noon / 昼のために』（WAITINGROOM/東京）、個展『In Other Words / 言い換えると』（konya-gallery/福岡）、2018年グループ展『Landschaft. Gebrochene Idylle』（Schloß Agathenburg/ドイツ）、2017年個展『The Children of Icarus』（WAITINGROOM/東京）、2016年個展『delikatelinien』（Ermekeilkaserne/ドイツ）、2016年グループ展『The Material of Memory』（Frise/ドイツ）、『Lifestyles』（Westwerk/ドイツ）、2014年グループ展『想像しなおい』（福岡市美術館/福岡）、2013年個展『Observer Effect』（Galerie du Tableau/フランス）、2011年個展『Shiseido Art Egg / Open Secret』（Shiseido Gallery/東京）などが挙げられ、国内外で精力的に活動しています。



土取 郁香 (つちとり・ふみか)

1995年兵庫県生まれ、京都在住。2020年に京都芸術大学（旧：京都造形芸術大学）大学院・美術工芸領域・修士課程を修了。現在は京都を拠点に活動中。2人の人物を描いた《I and You》、風景の中から色やかたちなどの要素を抽出した《a scene》の2つのシリーズを通して、人と人のあいだにある距離や、「見る」ことの多様性、特定の対象をかけがえなく思うことについてをテーマに制作をしているアーティストです。近年の展覧会に、2020年グループ展『アートアワードトーキョー丸の内2020』（行幸地下ギャラリー／東京）、個展『骨と皮（火を灯す・薔薇をみつけて来なければ）』（WAITINGROOM／東京）、グループ展『SUBJECT』（アンテルーム京都／京都）、グループ展『A-Lab Artist Gate 2020』（A-Labあまらぶアートラボ／兵庫）、2019年グループ展『京都アートラウンジ』（スターバックスコーヒー三条大橋店／京都）、グループ展『Shibuya STYLE Vol.13』（西部渋谷店美術画廊／東京）、グループ展『Innocent -P-』（国立京都国際会館／京都）、グループ展『Artist's Tiedeland KYOTO』（新宿伊勢丹メンズ館アートラウンジ／東京）などが挙げられます。



飯山 由貴 (いいやま・ゆき)

1988年神奈川県生まれ。2013年に東京藝術大学大学院・美術研究科・油画専攻を修了。現在は神奈川県と東京都を拠点に活動中。他者の制作した記録物や話された言葉を起点に個人と社会/歴史との関係を考察し、その過程で汲み上げられていくドキュメンタリーと作家自身が見る世界の交差点を、写真や映像、実際の記録やそれにまつわるテキスト、オブジェなど、それらを組み合わせたインスタレーション作品を通して表現しているアーティストです。近年の展覧会に、2020年『ヨコハマトリエンナーレ2020』（横浜美術館／神奈川）、2017年グループ展『コンニチハ技術トシテノ美術 Nice to meet you ARTECHNIK』（せんだいメディアテーク／宮城）、グループ展『MOT Satellite - 往来往来 - 東京都現代美術館サテライツプロジェクト』（清澄白河エリアの各所／東京）、2016年個展『瀬戸内国際芸術祭2016・アーティスト in 六区 2016: Vol.1 飯山由貴：生きている百物語』（宮浦ギャラリー六区／直島）、グループ展『歴史する！ Doing history!』（福岡市美術館／福岡）、2015年個展『APMoA Project, ARCH vol.16: 飯山由貴 Temporary home, Final home』（愛知県美術館／名古屋）、2014年個展『あなたの本当の家を探しにいく / ムーミン一家になって海の観音さまに会いにいく』（WAITINGROOM／東京）などが挙げられます。



伊東 宣明 (いとう・のぶあき)

1981年奈良県生まれ、京都在住。2006年に京都芸術大学（旧：京都造形芸術大学）映像舞台芸術学科・映像芸術コースを卒業、2016年に京都市立芸術大学大学院・美術研究科博士後期課程修了、博士（美術）学位を取得。「身体」「生／死」「精神」といった生きるうえで避ける事のできない根源的なテーマを追求し、映像やインスタレーション作品を発表しているアーティストです。近年の主な展覧会に、2018年個展『フィクション / 人生で一番美しい』（WAITINGROOM／東京）、グループ展『CANCER THE MECHANISM OF RESEMBLING』（EUKARYOTE／東京）、2016年個展『アートと芸術家』（WAITINGROOM／東京）、グループ展『S-HOUSE ミュージアム開館記念展』（S-HOUSEミュージアム、岡山、2016年より）、2015年個展『アート』（愛知県美術館 APMoA Project ARCH／愛知）、グループ展『GRAVEDAD CERO』（Matadero Madrid／スペイン）、2014年グループ展『牛窓・亜細亜芸術交流祭 - 瀬戸内市美術館』（牛窓シーサイドホール／岡山）、2012年グループ展『Me'tis -戦う美術-』（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／京都）、2010年グループ展『レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート』（サントリーミュージアム／大阪）などが挙げられます。



柴田 祐輔 (しばた・ゆうすけ)

1980年福岡県生まれ、千葉県在住。2007年武蔵野美術大学大学院美術専攻版画コース修了。現実世界の曖昧さや不確かさに着目し、映像・写真・オブジェなど、様々なメディアを使ったインスタレーションを国内外で発表しているアーティストです。2019年国際交流基金Asia Fellowshipで、東南アジア6カ国11都市でビデオ史に関するリサーチを行いました。近年の展覧会として、2020年個展『続・続・公共と自由』（新宿伊勢丹・イセタンメンズ館2階／東京）、2019年スクリーニング『VIDEO BATTLE Yusuke Shibata』（Indonesian Institute of the Arts, Yogyakarta／ジョグジャカルタ）、2018年個展『Meeting Point』（Yet Thirtieth Experimental Art Space／香港）、2017年グループ展『奥能登国際芸術祭』（旧小泊保育園／石川）、2017年個展『続・公共と自由』（WAITINGROOM／東京）、2016年個展『公共と自由』（Art Center Ongoing／東京）など。Ongoing Collectiveのメンバー。フリースタイルフォトバトル企画など。



三宅 砂織（みやけ・さおり）

1975年岐阜県生まれ、大阪在住。2000年に京都市立芸術大学大学院美術研究科を修了。2003年ごろより、透明なフィルムに陰陽反転したドローイングを描き、印画紙に現像する「フォトグラム」の制作を開始。膨大な量のイメージが氾濫する現代においてもあえてイメージを見るという営為に重きを置き、人々の眼差しに時代を超えて内在する「絵画的な像」を多声的に抽出するという試みを展開しています。近年の主な展覧会に、2019年グループ展『MOTアニュアル2019 Echo after Echo：仮の声、新しい影』（東京都現代美術館／東京）、個展『庭園 I POTSDAM』（SPACE TGC／東京）、2018年個展『THE MISSING SHADE 3』（WAITINGROOM／東京）、グループ展『第20回 DOMANI・明日展』（国立新美術館／東京）、2017年グループ展『ArtMeets04 田幡浩一／三宅砂織』（アーツ前橋／群馬）、2013年グループ展『秘密の湖～浜口陽三・池内晶子・福田尚代・三宅砂織～』（ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション／東京）、2012年グループ展『アブストラと12人の芸術家』（大同倉庫／京都）などが挙げられます。

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：http://waitingroom.jp